

平成29年度 事業報告書

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

公益財団法人 日立財団

目 次
(平成29年度事業報告)

概 要	1
1. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための研究助成、及び顕彰	
1. 1 倉田奨励金(研究助成金)の交付	1
1. 2 ストックホルム犯罪学賞への助成	2
2. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための海外研究者の招聘、及び研究支援	
2. 1 日立スカラシップ事業	2
(1) 博士課程留学支援プログラム	2
(2) 短期研究者招聘プログラム	3
(3) リサーチサポートプログラム	4
3. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための研究者の海外派遣	
3. 1 倉田奨励金受領者の研究成果発表支援のための海外渡航費補助	5
4. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための調査研究の実施、出版物の刊行、及びシンポジウム・セミナーの開催	
4. 1 シンポジウム・セミナー等の開催	6
(1) 高尾基金事業(高尾記念科学技術公開セミナー)	6
5. 幼児、児童、青少年の健全な育成に関する取組みへの支援	
5. 1 横山基金事業:日立少年少女発明クラブへの助成	6
5. 5 理工系人財育成支援事業	6
(1) 日立みらいイノベータープログラム	7
(2) 日立サイエンスセミナー	8
(3) 理工系女子応援プロジェクト	8
6. 地域コミュニティ活動の支援	
6. 1 Webマガジン「みらい」の発行	9
6. 2 社会をみつめるシンポジウム	9
6. 3 小平奨励賞(社会的功労者の顕彰)	10
6. 4 小平記念作文事業	10
6. 5 日立市少年少女スポーツ育成大会事業	11
6. 6 地域活動推進事業	11
(1) BBSモデル活動事業への助成	11
(2) 少年少女自立支援	12
6. 7 地域家庭教育支援事業	13
6. 8 地域コミュニティに資する助成事業に関する調査・検討	14
7. 処務の概要	14

概要

平成29年度は平成28年度に引き続き中期的な方向性によった事業の見直しを行った。倉田奨励金助成対象分野をこれまでの学術分野から3つの応用技術分野に変更し、スカラシップ事業をリサーチ サポート プログラムに集約、小平奨励賞、少年少女自主支援を終了した。一方、日立みらいイノベータープログラムは、児童の「問題発見・課題解決力」を育成することを目的として、日立社員が企業講師として学校を訪問するなど、2校でプログラムを実施し、有効性を検証した。あわせて啓発活動として、プログラム説明会および教育フォーラムも開催した。また、平成28年度よりはじめた、Webマガジン“みらい”、理工系女子支援プロジェクトを充実させた。

1. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための研究助成、及び顕彰

1.1 倉田奨励金(研究助成金)の交付

本事業は平成28年度までに、1,323件の研究テーマに総額約22億7,000万円を贈呈し、国内の研究活動の支援を行ってきた。平成27年に日立の国内5財団が合併し、日立財団となったことを機会に、時代にあった内容への見直しを行い、助成対象分野をこれまでの学術分野から、3つの応用技術分野に変更した。社会課題解決に資する基礎・応用分野の先駆的な研究テーマと対象とし、さらに、科学技術に限らず、文理融合の研究テーマへも積極的な助成を行っている。平成29年度の実施内容は以下の通り。

(1) 助成対象者

国内の研究機関(博士後期課程を有する研究科及び同研究科に係る学部、または文部科学省科学研究費補助金の申請ができる法人)に所属する研究者を対象とした。ただし、国籍は問わない。

(2) 助成対象分野

①エネルギー・環境、②都市・交通、③健康・医療の3分野における社会課題の解決に資する基礎的、融合的な研究とする。また自然科学と社会科学の分野横断的、融合的な研究も助成対象とする。

(3) 助成金額

助成金総額は3,000万円とし、1件あたりの助成金額は100万円程度(上限300万円)。

(4) 募集方法

募集案内を当財団ホームページに掲載し募集した。募集期間は平成29年6月30日～9月20日とした。

(5) 選考委員

6名の選考委員による審査を行い、選考委員会にて受領者を選定した。

- ・選考委員長 大西 隆 豊橋技術科学大学 学長
- ・選考委員 小豆畑 茂 日立製作所フェロー
- 佐久間一郎 東京大学大学院工学系研究科教授
- 城山 英明 東京大学公共政策大学院教授
- 須田 義大 東京大学生産技術研究所教授
- 矢部 彰 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)ユニット長

(6) 助成金の贈呈

大学:66校、工業高等専門学校:3校、研究機構:10機関から計204件の応募があり、選考委員会で慎重かつ厳正に審査を行った結果、エネルギー・環境:12件、都市・交通:5件、健康・医療:15件の計32件(内、文理融合研究6件)に対し、合計3,060万円を交付することを決定し、平成30年3月1日(木)に経団連会館において贈呈式を行った。

1. 2 スtockホルム犯罪学賞への助成

スウェーデン法務省の後援を受けて、犯罪学分野の国際賞「ストックホルム犯罪学賞」が創設された。この賞は犯罪研究に優れた業績、もしくは研究結果を応用して犯罪の低減と人権の促進に貢献した方に贈られるものとなっている。ストックホルム犯罪学賞は、毎年1名(共同研究の場合は複数名)の受賞者に贈呈される。初の授賞式は平成18年6月にストックホルム市庁舎で開催された。これまで、「ストックホルム犯罪学賞」はスウェーデン政府による運営であったが、平成23年12月のスウェーデン議会において、「ストックホルム犯罪学賞」の運営財団設立が認可され、スウェーデン政府により1,400万スウェーデンクローナ(約1億6千万円)の予算が割り当てられた。現在は、この「ストックホルム犯罪学賞」運営財団により、賞の運営が行われている。

当財団は、平成18年度に500万円助成支援して以来、平成19年度から毎年100万円を助成し、平成29年度も100万円を助成した。

2. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための海外研究者の招聘、及び研究支援

2. 1 日立スカラシップ事業

本事業では東南アジアの学術・科学技術の発展及び日本との学術・文化交流の促進を目的に、東南アジアの大学教員を日本の大学や研究機関に招聘している。本事業には3つのプログラムがあり、平成29年度はそれぞれ以下の活動を実施した。

日立スカラシップ事業	平成29年度の活動
(1) 博士課程留学支援プログラム	募集停止。平成29年度の入入者を博士課程の3年間支援したのち、本プログラムを終了する。
(2) 短期研究者招聘プログラム	募集停止。平成29年度の入入をもって、本プログラムは終了した。
(3) リサーチサポートプログラム	新規募集開始。受入開始は、平成30年度となる。

(1) 博士課程留学支援プログラム

自然科学分野を専門とする東南アジアの大学教員が日本の大学院で博士号を取得することを支援するプログラムであり、平成28年度までに182名を招聘した。平成29年度以降は新たな募集を行わず、平成28年度に採択を決定した4名の受入を行う。平成29年度受入奨学生の博士課程3年間を支援したのち、本プログラムを終了する。

① 奨学生4名の受入

	氏名	所属大学（国）	留学先（研究分野）
1	Florencio Collado Reginio Jr.	フィリピン大学 (フィリピン)	千葉大学 (食品工学)
2	Muhammad Akbar	バンドン工科大学 (インドネシア)	上智大学 (生産工学)
3	Firly Rachmaditya Baskoro	バンドン工科大学 (インドネシア)	広島大学(システム サイバネティクス)
4	Delly Chipta Lestari	インドネシア大学 (インドネシア)	大阪大学 (細菌感染)

② 奨学給付金の支給

奨学生には規定に従い、下記奨学給付金を支給した。

- i) 来日・帰国旅費:エコノミークラス航空運賃
- ii) 奨学金: 18万円/月
- iii) 入学金、授業料等: 実費
- iv) 住居費補助: 実費 (但し、上限4万円/月)
- v) 研修旅費(研究調査、学会参加費等): 実費
(但し、国内は上限5万円/年、海外は上限20万円/年)

③ 行事

日本への留学をより意義深いものとする為、下記を実施した。

- i) 夏季研修旅行 (平成29年8月28日～8月30日 於 京都、奈良)
- ii) 秋入学奨学生オリエンテーション(平成29年9月28日 於 財団事務所)
- iii) 研究発表会、卒業生交流食事会 (平成30年3月22日 於 財団事務所、レストラン)
- iv) 春入学奨学生オリエンテーション(平成30年3月28日 於 財団事務所)

(2)短期研究者招聘プログラム

自然科学分野の博士号をもつ東南アジアの大学教員を日本の大学や研究機関に招聘することで、研究を支援するプログラムであり、平成28年度までに192名を招聘した。平成29年度以降は新たな募集を行わず、平成28年度に採択を決定した12名の研究者の受入をもって、本プログラムは終了した。

① 研究者12名の招聘

	氏名 所属大学（国）	招聘先（研究分野） 「研究テーマ」	期間
1	Pathrapol Lithanatudom チェンマイ大学 (タイ)	北海道大学（癌生物） 「AKT 関連タンパク質の特性解析」	1.5 ヶ月
2	Maslin Osathanunkul チェンマイ大学(タイ)	神戸大学（人間環境学） 「箱クラゲにおける環境 DNA の試験研究」	1.5 ヶ月

3	Pornnapa Kasemsiri コンケン大学 (タイ)	東京工業大学 (応用科学) 「形状記憶ポリマーの熱特性分析」	1.5 ヶ月
4	Wanchai Assawalapsakul チュラロンコン大学 (タイ)	自治医科大学 (感染・免疫学) 「ヒト細胞のマイクロ RNA 解析」	1.5 ヶ月
5	Tosapol Maluangnont キングモンク工科大学 ラクラバン校 (タイ)	岡山大学 (構造化学) 「ナトリウムイオン電池負極素材の研究」	2 ヶ月
6	Ariel Conferido Blanco フィリピン大学ディリマン (フィリピン)	東京工業大学 (地球環境共創) 「LiDAR を使ったマングローブ分布」	1 ヶ月
7	Mary Donnabelle Lirio Balela フィリピン大学ディリマン (フィリピン)	東京大学 (材料統合) 「水の電気分解用の新触媒の開発」	1.5 ヶ月
8	Quyen Xuan Nguyen ハノイ工科大学 (ベトナム)	電気通信大学 (情報工学) 「モニターシステムの機密性向上」	1 ヶ月
9	Huy Nguyen Duc ハノイ工科大学 (ベトナム)	早稲田大学 (環境エネルギー) 「マイクログリッドの動的モデル開発」	1.5 ヶ月
10	Tram Xuan Thanh Nguyen ホーチミン工科大学 (ベトナム)	九州大学 (生体材料) 「多孔性炭酸アパタイト顆粒作成・分析」	1.5 ヶ月
11	Brian Yulianto バンドン工科大学 (インドネシア)	国立研究開発法人物質材料研究機構(ナノ アーキテククスメソスケール物質化学) 「炭素-金属酸化物複合体センサーの開発」	1 ヶ月
12	Shefaly Shorey シンガポール国立大学 (シンガポール)	秋田大学 (保健学) 「小児がん患者用アプリの実証研究」	0.5 ヶ月

(3) リサーチサポートプログラム

日立スカラシップ事業全体をリニューアルし、平成29年度から開始。これまで良好な関係を構築してきた東南アジアの各大学との連携を継続しつつ、科学技術の振興を通じて、社会課題解決を図ることを目的に、「エネルギー・環境」「都市・交通」「健康・医療」の3分野で基礎的、融合的研究を行う東南アジアの大学教員(研究者)を支援する。平成29年度は、募集から書類選考と現地面接までを行った。選考委員会と採択者の招聘は、平成30年度の実施となる。

① 招聘対象者

東南アジアの指定大学(※)に所属し、博士号をもつ大学教員で、応募時年齢が46歳未満の者。

※指定大学(6カ国15大学)

- タイ :チュラロンコン大学、チェンマイ大学、コンケン大学、モンクット王工科大学ラクラバン校、モンクット王トンプリ工科大学
- インドネシア:ガジャマダ大学、バンドン工科大学、インドネシア大学、スラバヤ工科大学
- マレーシア :マラヤ大学、マレーシア工科大学
- シンガポール:シンガポール国立大学
- フィリピン :フィリピン大学(ディリマン校・ロスバニョス校)
- ベトナム :ハノイ工科大学、ホーチミン市工科大学

② 対象研究

「エネルギー・環境」「都市・交通」「健康・医療」の3分野における社会課題の解決に資する基礎的、融合的な研究。また自然科学と社会科学の分野横断的、融合的な研究も支援対象。

③ 支援内容

支援総額は1,500万円とし、内訳は研究支援金と往復航空運賃。研究支援金は、月額18万円とし、支援期間分を支給。

④ 支援期間

支援期間は、最大1年間。

⑤ 募集方法

指定大学の事務局経由で募集。

⑥ 選考時期と選考方法

平成29年	6月下旬	募集開始
	10月末日	募集締切
	11～12月	書類選考（分野別に選考委員にて実施）
平成30年	1～3月	現地面接（財団事務局にて実施）
	4月中旬	選考委員会

⑦ 選考委員

委員長	木村 孟	（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 顧問）
委員(エネ・環境)	酒井 夏子	（国立研究開発法人産業技術総合研究所 イノベーション推進本部産学官国際連携推進部部長）
委員(都市・交通)	須田 義大	（東京大学生産技術研究所 千葉実験所長 次世代モビリティ研究センター長）
委員(健康・医療)	小俣 透	（東京工業大学工学院機械系 教授）
委員	小野寺 浩幸	（公益財団法人日立財団 常務理事）

3. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための研究者の海外派遣

3.1 倉田奨励金受領者の研究成果発表支援のための海外渡航費補助

平成18年度から倉田奨励金受領者が受領テーマに関する研究成果を国際会議等で発表する際に海外渡航費補助を行っている。平成29年度は以下通り実施した。

- (1) 応募資格: 過去1年間(平成26年度)の倉田奨励金受領者
- (2) 応募申請: 年4回、四半期毎に応募受け

(3) 審査方法: 日立財団事務局にて審査

(4) 審査結果: 渡航費補助: 13件、総額195万円(上限15万/件)

なお、本事業は当初の目的を達成したため、平成29年度の助成を最後として休止とする。

4. 学術・科学技術の振興及び環境保全の推進のための調査研究の実施、出版物の刊行、及びシンポジウム・セミナーの開催

4.1 シンポジウム・セミナー等の開催

(1) 高尾基金事業 (高尾記念科学技術公開セミナー)

日立製作所元副社長である故高尾直三郎氏のご遺族から寄贈いただいた財産を基金として、平成6年より市民も聴講できる「茨城大学イブニングセミナー」と「高尾記念市民公開講座」を開催してきた。「茨城大学イブニングセミナー」については、その役割が終わったものと判断して平成28年度をもって終了し、平成29年度は「高尾記念市民公開講座」を「高尾記念科学技術公開セミナー」と名称を改め、以下の内容で実施した。

第13回 高尾記念科学技術公開セミナー

九州大学発のベンチャー企業である株式会社HIROTSUバイオサイエンスの広津崇亮氏を講師にむかえ、「線虫によるがん検査」をテーマに実施。

- ・日時: 平成29年10月15日(日)13:30~15:00
- ・場所: 国立科学博物館(上野公園内) 日本館講堂
- ・参加者: 100名

当日の講演資料、Q&Aは当財団ホームページに掲載し、一般に公開した。平成30年度も、最先端科学をテーマに、年1回開催する。

5. 幼児、児童、青少年の健全な育成に関する取組みへの支援

5.1 横山基金事業: 日立少年少女発明クラブへの助成

日立化成株式会社元相談役である故横山亮次氏より贈呈された寄付金を基金として、平成11年度より実施。平成14年度からは、子ども達の科学・創造性振興に貢献するプログラムとして、日立市の「日立少年少女発明クラブ」への助成を実施してきた。

平成29年度も平成30年3月4日(日)に日立シビックセンターで「横山基金日立少年少女発明クラブ競技会」を開催した。

5.2 理工系人材育成支援事業

近年、「科学離れ」「理科離れ」が叫ばれる中、ものづくりやイノベーションの基盤が揺らぐことが危惧されている。平成27年3月には文部科学省が「理工系人材育成戦略」を発表するなど、日本の次世代を担う理工系人材の戦略的育成が課題となっている。理工系人材に求められる能力は段階的・発展的に育成されることから、初等中等教育段階から取り組むことが重要とされている。そうした背景を受け、平成28年度は日立財団の注力分野である「人づくり」の柱として、中長期的視野に立った「理工系人材育成支援事業」を体系化、平成29年度には、以下の3つのプログラムを実施した。

(1) 日立みらいイノベータープログラム

本プログラムは、小学5～6年生を対象にしたプロジェクト型探究学習で、“理想の学校に改革しよう！”をテーマに、児童の「問題発見・課題解決力」を育成することを目的としている。プログラムは総合の時間などを使い、学校主導で実施するが、プログラムの期間中、日立製作所および日立グループの社員が企業講師として学校を訪問、イノベーションの重要性や「課題発見・課題解決」の方法、事例を伝える。プログラムは2段階で構成されており、フェーズ1では、「課題発見・課題解決」のスキルトレーニングを実施。フェーズ2では、児童自らが学校の課題を発見し、解決案を企業講師に発表、それに対して企業講師がフィードバックを行う。

平成29年度は、2校でプログラムを実施した。啓発活動としては、プログラム説明会および教育フォーラムを開催した。また教材やツールを拡充させ、映像教材も制作した。

① 実施校

i) 和歌山大学教育学部附属小学校(和歌山県)

対象:5、6年生の複式学級(1クラス 15名)

プログラム実施期間:平成29年6月9日～平成30年1月31日

出張授業実施日:期間中4回(6月9日、10月12日、10月26日、11月16日)

ii) 中野区立緑野小学校(東京都)

対象:5年生の複式学級(2クラス 80名)

プログラム実施期間:平成29年10月18日～平成30年1月31日

出張授業実施日:期間中4回(10月18日、11月14日、12月21日、1月31日)

② プログラム説明会

目的:日立製作所および日立グループ各社へのプログラムの周知、今後の協力依頼

日時:29年7月11日(火)15:00～17:20

場所:日立製作所の会議室

対象:日立製作所および日立グループ各社のCSR責任者および関係者

参加:17名

③ 教育フォーラム

目的:教育トレンドの発信、教育関係者同士の交流の場(社会的機会)の創出

題目:「変わる教育と日本の未来」～未来を創造(イノベート)する人財育成を考える

日時:平成29年8月25日(金)13:30～16:00

場所:日本工業倶楽部会館(千代田区丸の内)

対象:次世代育成支援に取り組む教育関係者・企業・団体関係者

参加:112名

<基調講演>

「21世紀、正解のない成熟社会で生き残るには？」

—教育現場から見た、未来の人材育成— 藤原 和博 氏

(教育改革実践家/奈良市立一条高等学校校長、元リクルート・フェロー)

<特別講演>

「2020年の教育改革とこれからの学びの在り方」 合田 哲雄 氏

(内閣官房人生100年時代構想推進室内閣参事官

(前・文部科学省 初等中等教育局教 育課程課 課長))

<財団紹介>

日立みらいイノベータープログラム紹介

(2) 日立サイエンスセミナー

子どもたちに理科の面白さを感じてもらうことを目的とした科学実験セミナー「日立サイエンスセミナー」を科学技術館と日立製作所および日立グループ各社の協力を得て、科学技術館にて開催した。平成29年度は、子どもたちの夏休みである8月に3日連続で実施することで、日立サイエンスDAYSとして打ち出した。

開催日	テーマ	講師
8月8日(火)	水の循環 ～未来の水のためにできること～	日立製作所(水ビジネスユニット)
8月9日(水)	磁石ってなんだろう？ 乾電池をつくってみよう！ クリップモーターをつくろう！	日立金属 日立マクセル 日立製作所(日立研究所)
8月10日(木)	電子顕微鏡を使って観察しよう！ ～知っているものの、知らない世界～	日立ハイテクノロジーズ
10月29日(日)	化学ってすごい！2017秋 ～化学の面白さを体感しよう～	日立化成
12月10日(日)	コンピュータに言葉をしゃべらせて みよう	日立製作所(中央研究所)
2月18日(日)	化学ってすごい！2018冬 ～電池の仕組みを学んでみよう～	日立化成

(3) 理工系女子応援プロジェクト

①日立財団のウェブサイトにて、女子中・高生の理工系分野への進路選択を応援する特設サイト「わたしのあした」を公開した。本サイトでは、対談やインタビュー、コラム等のコンテンツで情報発信を行っていく。平成29年度は以下の対談、インタビューを掲載した。

対談1: ゲスト 大島まり氏(東京大学生産技術研究所 教授)

聞き手 荒木 由季子(株式会社日立製作所 理事 CSR・環境戦略本部長)

対談2: ゲスト 玉城 絵美氏(H2L, Inc.創業者)

聞き手 荒木 由季子(株式会社日立製作所 理事 CSR・環境戦略本部長)

インタビュー: 内閣府男女共同参画局長 武川恵子氏

②平成29年7月22日(土)、講談社の協力を得て、東京・護国寺にある 講談社特設会場で「これからのイノベーションに女子のワガママを。」をテーマに、女子中高生を対象としたイベントを開催、約30名の女子中学生、高校生が参加した。

当日は、日立製作所システムイノベーションセンターの浅野優研究員のスピーチの他、モノづくりワークショップを実施した。

6. 地域コミュニティ活動の支援

6.1 Webマガジン「みらい」の発行

都市社会における格差(子どもの貧困、高齢者問題、介護問題など)に対して啓発を行うことを目的にWebマガジン「みらい」を平成28年度に創刊。さまざまな角度から課題をとらえ、「みらい」の名の通り、啓発だけでなく、その課題の解決法や展望、支援策を幅広い読者層に向けて提示する内容とした。

29年度は、2号として「親子関係の闇に迫る」と題し、社会的弱者である子どもたちの現状とその解決策を探る。子どもの問題を親との関係から掘り下げ、現代社会における親子関係の闇に焦点を当て、医学、心理学、社会学、犯罪学の専門家に伺った。

(1) 押川剛氏インタビュー (実施日10月17日 Web公開日2月中旬)

『壊れてしまった家族への危機介入の現場から～成熟社会における親子のあり方とは』

押川剛(オシカワ・タケシ)氏

対話と説得によって患者を医療につなげる、精神障害者移送サービスを行っている。

移送した患者は1000人を超える。ジャーナリストとしてもTVの報道番組や論壇誌等で活躍。『「子供を殺してください」という親たち』『子供部屋に入れない親たち』等著書多数。

(2) 論文特集 (Web公開日 3月中旬)

1. 脳科学からみた親子関係 理化学研究所 脳科学総合研究センター

黒田公美氏・大村菜美氏

2. 毒親と子どもの関係 さいとうクリニック 理事長 斉藤 学氏

3. 単親家庭と生活ストレス 明星大学人文学部 人間社会学科 教授 西村純子氏

4. 崩壊家庭における愛着障害 岡田クリニック院長 岡田 尊司氏

5. 親子間の葛藤～親殺し・子殺し 拓殖大学 教授 守山 正氏

(3) シンポジウム講演録(Web公開日 3月下旬)

6.2 社会をみつめるシンポジウム

本シンポジウムは、Webマガジン「みらい」と連動して行い、都市社会における格差(子どもの貧困、高齢者問題、介護問題など)や、現代社会が抱える課題に対して啓発を行い、その解決法や展望、支援策を提示し、社会的弱者を救済するために何ができるかを掘り下げ、答えを持ち帰ってもらえることを目的とする。

29年度は、日立の財団活動が誕生して50周年を記念し、「記念シンポジウム」とした。テーマは、財団法人 小平記念会の創設者の駒井健一郎氏が提唱した「早期教育」について今一度原点に戻り、現代の文脈で見つめ直し、幼児教育(早期教育)の重要性とその課題、現代の社会課題である、子どもにまつわる「格差」について追求した。

(1) 50周年記念シンポジウム

「子どもへの投資が明日をつくる ～教育と社会的リターン～」

開催時期 2018年1月13日(土) 13時～17時

会場 日比谷コンベンションホール 大ホール(千代田区日比谷公園1番4号)

〈基調講演〉

「毎日かあさんから学ぶ楽しい子育て」西原理恵子氏(漫画家)

聞き手:小林 美紀氏(フリーアナウンサー)

〈シンポジスト〉

「貧困の世代間連鎖を断ち切る ―教育経済学の研究蓄積から―

中室牧子氏(慶應義塾大学総合政策学部准教授)

「非行と貧困 一格差社会における社会的排除―」守山正 氏 (拓殖大学)

「親力できまる子どもの将来」親野 智司等氏(教育評論家)

「貧困の連鎖と教育支援」渡辺由美子氏(NPO法人キッズドア 理事長)

6.3 小平奨励賞(社会的功労者の顕彰)

茨城県内において社会に地道な貢献をされている個人や団体を発掘し、その功績を顕彰するとともに日頃の精進を激励することを目的に、昭和48年から「小平奨励賞」を制定し表彰してきた。第45回目となる29年度は、39件の応募があり、選考委員会で奨励賞2件を選出した。これまでの表彰件数は、個人・団体合わせ累計118件となった。

区分	受賞者	活動概要
奨励賞	手話の会 わ・Wa・和	35年に亘り、牛久市内の聴覚障がい者のためにボランティア通訳などのコミュニケーション支援を行うと共に、自らの手話技術の向上に努め、子供手話教室を開催するなど、地域における手話の普及と啓発ならびに手話通訳者の育成に取り組んでいる。
	吉田 實 宏 氏	43年に亘り、茨城町の小学校において、正しい自転車の乗り方や、自転車の知識・技術の習得を行う。交通法規の学科指導で、児童の交通安全意識が向上し、交通事故の減少に貢献した。

なお、本事業は当初の目的を達成したため、平成29年度を最後として終了する。

6.4 小平記念作文事業

45年間実施してきた「小平記念作文」は、29年度より「大好き いばらき 県民会議」主催の「大好き いばらき 作文コンクール」と共催事業となった。

未来を担う子どもたちに、茨城の豊かさ、暮らしやすさ、伝統文化のすばらしさ、家族や地域との絆について考えてもらうことを目的に、「ここが大好き、私のふるさと、私の家族」というテーマで募集。県内542校から22,555点の応募があり、91点が入賞した。新設された、「日立財団 小平記念賞」には、小学校低学年部門、同高学年部門、中学生部門、高校生部門から各1点選ばれ、「日立財団 奨励賞」には、小学校低学年部門、同高学年部門、中学生部門から各10点、高校生部門から6点が入賞した。

6.5 日立市少年少女スポーツ育成大会事業

平成29年度は、「竹内亀次郎記念杯 日立市少年少女スポーツ育成大会」を平成29年8月19(土)～21日(月)の3日間、日立市市民運動公園陸上競技場他、12会場において開催した。今回は、軟式野球、サッカー、バレーボール、ミニバスケットボール、バドミントンの5種目に、1,182名が参加した。

6.6 地域活動推進事業

(1) BBS^{*1}モデル活動事業への助成

全国のBBS活動の中から、将来のBBS活動の指針となり、かつ青年ボランティアとしての特色を生かしたユニークな活動に対して助成している。

本事業は、意欲的に活動に取り組むBBS会にとって、極めて貴重な財政的支援となっている。また、全国で実施された魅力的なBBS活動は、日本BBS連盟においてモデル活動事例として蓄積がなされ、BBS連盟外部への広報用資料として使用、あるいはBBS連盟内部でのBBS活動活性化用資料として使用するなど、有効に活用されている。平成29年度は日本BBS連盟が推薦した下記の12団体に助成した。

※1: BBS (Big Brothers and Sisters Movement) 活動

兄や姉のような身近な存在として、問題を抱える少年少女を援助する青年ボランティア団体が展開する更生保護ボランティア活動

	連盟・地区会	活動名	活動内容	助成額 (円)
1	栃木県BBS連盟	自分で創ろう絵本ストーリー&物づくり	虐待、育児放棄、家庭崩壊、経済的困窮等により児童養護施設での生活を余儀なくされたこどもたちに対し絵本等を自由な発想で読み込んでもらい、その結果をグループで話し合い、新しいストーリーを創りだすことにより創造性を育む。	45,000
2	埼玉県BBS連盟 所沢地区BBS会	むささび広場「かえっこまつり」	家庭で不要となったおもちゃ、本、ゲームソフト、アクセサリなどをこどもたちのあそびの広場に持ち寄り、様々なワークショップをとおして環境、リサイクル、地域の安全などを考えながら地域社会の活性化、地域コミュニティづくりの場とする。	120,000
3	富山県BBS連盟 富山地区BBS会	僕たち、私たちの秘密基地を作っちゃおう!!	富山県滑川市の児童館の多目的広場に、子どもたちが利用できる施設(遊び場)を子どもたちの手で作成する。特に、父親の参加を求め、完成まで年間5回程度のワークショップを行う。	200,000
4	石川県BBS連盟 小松能美地区BBS会	地域児童館活動	遊びを通して考え、決断し、行動し、責任を持つことを学びながら自主性・社会性・創造性を身につける場である児童館で、BBS会が参画し子どもたちの健全育成活動に支援する。	100,000

5	岐阜県BBS 連盟 大垣市BBS 会	バスケットボールをとおしての育成活動	7年前から貧困や社会に適応できずに非行に陥った少年たちを交えバスケットボールをとおしてルールを守る大切さ、チームで協力する楽しさなどを体験させながら立ち直りを支援。	200,000
6	愛知県BBS 連盟 名古屋南地区BBS会	作ろう！僕たち・私たちの居場所	虐待経験のトラウマや学校への不適応など困難を抱えた子どもたちと一緒に、鍋パーティーを行いながら交流を深め、安心できる場を提供。	130,000
7	滋賀県BBS 連盟	少年センター「あすくる」支援	非行歴のある少年や、不登校など社会に適応できない児童、生徒に対する立ち直り支援を実施。29年度からは学生BBS会員が主体で少年たちの自立に向けた活動を行った。	100,000
8	滋賀県BBS 連盟 東近江BBS 会	のんびりんぐ、冒険遊び場活動	不登校の子どもを対象とした居場所づくりを平成27年2月から毎月1回、お寺で行っている。29年度は、社会に適応できない多くの子どもに参加を求め能登川冒険遊び場を実施し、問題を抱えた子どもたちに学習支援を行った。	180,000
9	和歌山県BB S連盟 和歌山市BB S会	アウトリーチ型子ども食堂の研究実践普及活動(冒険こども食堂)	社会的に弱い立場の子どもたちに、こども食堂などサービスを提供するため、子どもに密着した施設、学童保育、児童養護施設などに出向きこども食堂を開く。	200,000
10	和歌山県BB S連盟 高野山BBS 会	学習に困難がある子どもの学習支援(こども食堂わくわく元気)	家庭の経済的困窮、不登校などにより学習に困難を抱えている子どもたちに対し地域の関係機関と連携し、毎週土曜日に学習支援を行うと共に食事の提供も行う。	150,000
11	徳島県BBS 連盟 徳島文理大 学BBS会	児童養護施設の子どもたちへの支援	ネグレクト、虐待などにより児童養護施設「徳島児童ホーム」に入所中の子どもに対し、自然の中でのネイチャーゲーム、工作教室、食事等を提供しながら、子どもたちの豊かな成長を助ける。	40,000
12	愛媛県BBS 連盟 えひめBBS 学生連合	わくわく体験授業	引きこもりや貧困などにより地域社会に馴染めない子どもたちを対象に、ジャグリング、バルーンアート、料理などの体験教室を開催。できなかったことが努力することによるできる喜びと、それらの成果を他の人たちに披露することで自信を得ることで、将来への希望を見いだす場としたい。	41,000

(2) 少年少女自立支援

「紫翠苑シンポジウム」から「少年少女自立支援」と名称を変えて、平成30年3月5日(月)に、「第11回プレーバックシアターを通じて学ぶ保護司活動」を、東京地方検察庁立川支部会

議室で開催。また3月3日(土)に、更生保護施設「紫翠苑」において、社会体験事業であるワークショップ(被保護者とボランティアスタッフによる共同シルバーリング製作作業)を開催するなど少年少女の自立に向けた支援を行った。本支援事業は当初の使命を果たしていることから、平成29年度をもって終了する。

6.7 地域家庭教育支援事業

平成26年度末(平成27年3月末)に終了した「教室事業」に代わる事業として、家庭教育及び子育て支援に関する講演会等を以下の通り実施した。

(1) 日立市教育委員会との共催事業

① 講演会:「発達障害傾向にある子どもの育て方、保育の進め方の具体的なポイント」

講 師:徳田 克己 氏(筑波大学医学医療系教授)

日 時:平成29年8月21日(月) 午後1時30分から午後4時55分まで

場 所:日立市消防拠点施設 3階講堂 (神峰町2-4-1)

対 象:幼児施設に勤務する保育士及び教員、小学校教員等学校関係者、保護者

募集数:100名(託児有り)

② 講演会:「子どもの食育について」

講 師:井川 聡子 氏(茨城キリスト教大学生活科学部教授)

日 時:平成29年12月2日(土) 午前10時から午前11時30分まで

場 所:日立地区産業支援センター 研修室 (西成沢町2-20-1)

対 象:未就学児を持つ保護者、幼児施設に勤務する保育士及び教員等

募集数:70名(託児有り)

③ 講演会:「夜回り先生からのメッセージ 子育てで一番大切なこと」

講 師:水谷 修 氏(花園大学客員教授)

日 時:平成30年1月28日(日) 午前10時から正午まで

場 所:日立シビックセンター 3階音楽ホール (幸町1-21-1)

対 象:小学生以下の子を持つ保護者、保育関係者及び教員、小学校教員等

募集数:600名(託児有り)

④ 講演会:「絵本のちから ことばのちから～赤ちゃんからの絵本を～」

講 師:渡辺 順子 氏(すずらん文庫主宰)

日 時:平成30年2月27日(火) 午後2時から午後3時30分まで

場 所:多賀図書館 4階大ホール (末広町1-1-4)

対 象:未就学児を持つ保護者、読み聞かせに関心のある市民他

募集数:80名(託児有り)

⑤ 番組制作:日立市行政放送番組「With～子育て情報局～乳幼児への接し方編」

出 演 者:飛田 隆 氏(茨城キリスト教大学文学部准教授)

期 間:平成30年1月から平成30年3月まで

対 象:乳幼児を持つ保護者

6. 8 地域コミュニティに資する助成事業に関する調査・検討

SDGs(持続可能な開発目標)に基づき、日立財団として特定した解決課題(社会課題)に対応する新規事業を立ち上げる。平成28年～平成29年は新規事業案の調査・検討期間とする。

本検討の一環として、主に子どもや格差社会など、地域コミュニティに関連する社会課題に取り組む以下の4つの団体へのヒアリングを行った。

- ・認定NPO法人 3keys (子どもの貧困対策、教育支援事業)
- ・公益財団法人あすのぼ (子どもの貧困対策事業)
- ・公益財団法人日本財団 (子どもの貧困対策他、幅広い分野で事業展開)
- ・公益財団法人助成財団センター (公益財団法人への情報提供、相談窓口)

また、米国NPO法人コペルニク共同創設者&CEO中村俊祐氏をファシリテーターに迎え、今後の方向性を考えるためのワークショップの第2回(第1回は平成28年度)を実施し、日立財団として対応すべきSDGsの目標、課題の分析、新規事業案について財団メンバーと共に議論を深めた。

7. 処務の概要

(1) 役員等に関する事項

(敬称略・五十音順) 平成30年3月31日現在

役 職	氏 名	手 当	現 職
理事長	葛岡 利明	無 給	(株)日立製作所 代表執行役 執行役専務
理事	畔柳 信雄	有 給	(株)三菱東京UFJ銀行 特別顧問
〃	高萩 光紀	〃	JXTG ホールディングス(株) 名誉顧問
〃	谷口 武俊	〃	東京大学 政策ビジョン研究センター 教授
〃	道垣内正人	〃	早稲田大学 法科大学院 教授
〃	床波 忠明	無 給	(株)日立製作所 CSR・環境戦略本部 社会貢献部 部長
〃	波多野睦子	有 給	東京工業大学 工学院 電気電子系 教授
〃	二宮 雅也	〃	損害保険ジャパン日本興亜(株) 代表取締役会長
常務理事	小野寺浩幸	無 給	(株)日立製作所 CSR・環境戦略本部 副本部長
監 事	内田 晴康	有 給	弁護士
〃	馬場 義宣	無 給	弁護士
評議員	荒井 勝	有 給	NPO法人日本サステナブル投資フォーラム 会長

〃	河野 通長	有 給	(株) ミチクリエイティブシティデザイナーズ 代表取締役社長
〃	白石 隆	〃	JETRO アジア経済研究所長 立命館大学 特別招聘教授
〃	鈴木 教洋	無 給	(株) 日立製作所 執行役常務
〃	谷本 寛治	有 給	早稲田大学 商学学術院商学部 教授
〃	丸山 寿	無 給	日立化成(株) 代表執行役 執行役社長
〃	安井 至	有 給	(一財) 持続性推進機構 環境人材育成コンソーシアム 代表幹事

(2) 職員に関する事項

平成30年3月31日現在

区 分	職 務	氏 名	就任年月日	手 当
東京事務所	事務局長	田村 光範	H28. 4. 1	無 給
	事務局次長 兼 シニア プログラムオフィサー	高野 美樹	H28. 4. 1	有 給
	事業担当	小野 珠実	H26. 12. 29	〃
	事業担当	渋谷 紀子	H14. 10. 11	〃
	事業担当	寺村 奈津季	H11. 2. 21	〃
	グループリーダー	梅本 恒紀	H21. 9. 1	〃
	経理主査	山田 正信	H29. 7. 1	〃

(3) 役員会に関する事項

理 事 会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	議事の結果
H29. 5. 8	評議員会招集の件	原案承認
H29. 6. 6	平成28年度事業報告及び決算諸表の承認の件 理事・監事候補者選任の件 評議員会招集の件 報告事項: 理事長及び常務理事 職務状況報告	原案承認
H29. 6. 6	代表理事(理事長)・常務理事選任の件	原案承認
H30. 1. 16	評議員会招集の件	原案承認
H30. 2. 21	平成30年度事業計画及び収支予算の件 公益目的事業変更申請の件 理事候補者選任の件 財団事業検討委員会設置の件 報告事項: 理事長及び常務理事 職務状況報告	原案承認

評 議 員 会

開催年月日	議 事 事 項	議事の結果
H29. 6. 6	理事・監事選任の件 評議員選任の件	原案承認
H29. 6. 21	平成28年度事業報告及び決算諸表の承認の件 理事・監事選任の件	原案承認
H30. 2. 21	平成30年度事業計画及び収支予算の件 公益目的事業変更申請の件 理事選任の件	原案承認

(4) 認可・許可及び承認に関する事項

無

(5) 契約に関する事項

無

(6) 寄附金に関する事項

寄 附 の 目 的	寄 附 者	寄 附 金 額
平成29年度運営 資金	(株)日立ハイテクノロジーズ、日立金属 (株)、(株)日立システムズ、日立化成(株)、 日立キャピタル(株)、(株)日立国際電気、 (株)日立物流、(株)日立ソリューションズ、 (株)三菱日立パワーシステムズ、(株)日立ビ ルシステム他計43社・日立グループカフェ テリアプラン、個人2名	17,232,100 円

(7) 主務官庁の指示に関する事項

無

(8) 附属明細書

事業における重要な事項は平成29年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第三十四条第三項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特に無い。

以上